

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（ 月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①カリキュラム・マネジメントの視点から魅力ある教育課程を編成し、運用・改善する。 ②ICT を利活用しながら、授業改善に組織的に取り組み、基礎学力の定着を図り、思考・判断・表現する力を伸長することで、主体的に活動できる人材を育成する。	①現行のカリキュラムを整理し、教育課程編成方針を作成し、魅力ある教育課程の編成に取り組む。 ②一人一台端末を活用し、さらに授業改善を行い、生徒の基礎学力の定着とともに思考・判断・表現する力の伸長を図る。	①新校の教育課程編成に向けて学校全体で情報交換を密に行い、育てたい生徒像や問題点などを検討しカリキュラム・マネジメントの視点から教育課程編成指針を作成し、魅力ある教育課程の編成に取り組む。 ②生徒の基礎学力の定着と思考・判断・表現する力の伸長を目指し、校内外の授業を多く見学し、一人一台端末の活用や教授法などよい取り組みについて研修等を通じて共有し、授業改善を行う。	①教育課程編成指針を作成し、育てたい生徒像や問題点の解決を念頭に置き、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえて、新教育課程表を完成させたか。 ②生徒による授業評価アンケートにおける関係項目について、8割以上の肯定的な回答を得られたか。また、一人一台端末を活用した教授法の研修を通じて授業改善ができたか。					
2	生徒指導・支援	①基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会の一員として行動するための規範意識を高める。 ②生徒1人ひとり個に応じた支援の充実を図る。 ③自己理解・他者理解を深め、自他を尊重できる人間関係を築き、コミュニケーション能力を育む。	①生徒指導の基準を示し、継続性をもって、指導や支援をおこなう。 ②支援を必要とする生徒へのSCやSSWとの連携を深め、相談できる環境を整えていく。 ③自主自律の精神のもと、生徒主体の行事運営を行い、他者との違いを理解し自他を尊重できる人間関係を築き、コミュニケーション能力を育む。 ③新校開校に向けて、旭高校の特徴である部活動の活性化を図る。	①職員が共通理解のもと、問題が発生した時には、複数で速やかに対応をおこなう。 ②SCやSSWと教職員の連携を強化し、生徒が相談しやすい環境を整備する。 ③生徒が主体となり、さまざまな視点から行事の企画・運営ができるよう、適切な助言・支援を行う。 ③部活動の加入に向けて周知に努める。	①生徒指導の初期対応の際に、複数の教員で対応することができたか。 ②SCやSSWとの意見交換を通して、支援を必要とする生徒を関係機関につなぐことができたか。 ③学校行事・生徒会活動・ボランティア活動などの生徒活動において、実施後のアンケートで8割以上の生徒が主体的、積極的に取り組み、達成感・満足感を実感できたか。 ③部活動加入率を60%以上にすることができたか。					
3	進路指導・支援	①10年後（AGE28）の自分をイメージしたキャリア形成ができるように、3年間を通したキャリア教育実践計画に基づき、キャリアデザイン能力を身につけさせる。	①生徒が主体的にキャリアを開拓していこうとする姿勢を養い、希望する進路の実現に向けて組織的に取り組む。 ②総合的な探究の時間において、自己理解やキャリア観を深め、将来設計や進路選択に役立つ知識やスキルを身につけさせることをめざす。	①職員研修を3回以上実施し、大学等の説明会に積極的な参加を促す。 ①外部模試を2回以上実施し、生徒への事前事後指導を計画的に実施し、生徒の自己分析力を育成する。 ②総合的な探究の時間について社会資源を活用しながら、3年間、見通しのある計画を立案し、実施する。	①研修の実施回数と参加者数が増加し、生徒への情報提供が十分に行えたか。 ①計画的な模試の実施と指導を通して、生徒の自己分析力を育成できたか。 ②各学年、総合的な探究の時間について、社会資源を活用しながら実施ができ、有意義な学習活動とすることができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①学校と地域の連携協働の「現状と課題」を把握し、改善を意識した学校運営協議会を運営する。 ②学校と地域の連携協働の促進により地域とともにある開かれた学校づくりを進め、地域の中で生徒の主体的な取組を支援する。	①学校運営協議会と各部署の連携をより強化するため、情報共有や意見交換を密に行い、様々な取組の情報発信をさらに充実させる。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組みを推進し、さらなる地域交流をめざす。	①学校運営協議会の意見や提言を活かす取組ができるよう、各部署との連携を図る。また「あさひだより」で学校の情報を地域に広報する。 ②今までの交流を継続しながら、「スクールフェスティバル」など新たな地域交流について周知する。	①各部署と連携し、学校運営に生かす具体的方策について集約し、実現できたか。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組みを推進し、ビリーブやスクールフェスティバルなど充実した地域交流ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①ICT を利活用した様々な活動を支援するための教育環境を整備する。また、ICT利活用により業務の効率化を図り、働き方改革を実践する。 ②地域への情報発信を迅速に行い、開かれた学校づくりを推進する。	①さらなる学習環境整備のため機器間接続状況の点検、改善はもとより、学校周辺も含めた環境改善に努める。それによりストレスの少ない学校づくり、ストレスの少ない職場づくりをめざす。 ①働き方改革として、ノー残業デーを設ける。 ②学校説明会やホームページ等さまざまなメディアを活用し、学校生活の様子を発信する。 ②開かれた学校づくりを推進するため、事故不祥事を学校から出さないように環境を整備する。 ②再編・統合を進めるため、設置計画案を作成し、令和9年度開校に向けて諸準備を進める。	①昨年度の段階で機器トラブルのあった端末の利用状況、動作状況を定期的に確認し、細やかに対応する。 ①大規模な校内外清掃である「クリーンアップ作戦」についてPTAと生徒の参加ボランティアの数を増やす。 ①朝の打合せ等でノー残業デーを周知するとともに業務アシスタントを活用するなど時間対効果を意識させる。 ②生徒主体の学校説明会の充実を図り、旭高校の魅力特色を中学生や保護者に伝える。ホームページの充実を図るため、各部署の担当への連絡を密にする。 ②不祥事防止について、自分事として捉えられる研修を実施する。 ②令和8年度末までに行う準備を計画し、実施する。	①接続等のトラブルが発生した場合に速やかに対応し、業務や授業への影響を最小限にとどめることができたか。 ①「クリーンアップ」作戦の参加者が昨年度の79名より多くなったか。清掃箇所を昨年度より広範囲にすることができたか。 ①月の時間外在校時間45時間超の教員の割合を15%以下にできたか。また、月の時間外在校時間80時間超の教員の割合を2%以下にできたか。 ②学校説明会の「学校紹介・教育課程について」などのアンケートで90%以上の肯定的回答が得られたか。 ②ホームページの更新が適切な頻度と速さで行われたか。 ②不祥事防止研修を10回以上実施し、自分事として捉えられる内容の研修を実施できたか。 ②ハード面、ソフト面の準備を滞りなく進められたか。					